

TOPICS  
4

## トピックス…④

## 平成29年も好況感は継続するが懸念材料も

## — 平成29年上半期農業景況調査より —

日本政策金融公庫農林水産事業本部は9月25日、融資先の担い手農業者を対象に実施した「平成29年上半期農業景況調査」（有効回答数：5,116、回収率：24.0%）の結果を発表した。平成29年上半期は、前年同様総じて好況感が続いていると言えるが、29年通年の見通しについては、肉用牛を中心に慎重な判断が目立った。

## 1. 景況D Iは低下するもプラス値を維持

D I（Diffusion Index）は、前年と比較して、「良くなった」という回答の構成比から「悪くなった」の構成比を差し引いた動向指数である。したがって、D Iがプラス値の場合は前年より好調を、マイナス値の場合は前年より悪化を、また数値はその程度を示している。

農業全体の29年上半期景況D Iは12.0で、過去最高だった28年通年（20.0）から8.0ポイント低下した。販売単価の低下（販売単価D I：26.1→0.4）と生産コストの上昇（生産コストD I：▲19.1→▲20.9）を背景に、収支・資金繰りが悪化し（収支D I：16.7→10.0、資金繰りD I：15.5→9.1）、その結果、景況D Iが悪化したものと思われる。しかし、景況D I、収支D I、資金繰りD Iはいずれもプラス値を維持していること、設備投資D Iは28年の過去最高値（3.6）を更新し、12.2まで上昇していることから、総じて好況感は続いていると言えそうである。

## 2. 酪農は好調ながら肉用牛は悪化

29年上期の業種別景況D Iは、販売単価の好調が続く酪農（北海道：57.6→45.1、都府県：52.2→30.2）が3年連続でプラス値となり、養豚（26.2→45.1）やブロイラー（27.4→44.9）、採卵鶏（40.8→32.7）といった畜産分野で高い水準を維持している。しかし、肉用牛（50.3→9.8）は素牛価格が高値基調の中、販売単価が下落したため、景況D Iは大幅に悪化した。

耕種は露地ものと施設もので明暗が分かれ、昨年に引き続き販売単価が好調な果樹（25.6→24.8）、茶（11.1→13.8）や、春先から7月にかけて順調に生育が推移した露地野菜（14.7→17.0）は堅調に推移した。

他方、施設野菜（26.3→8.9）、きのこ（1.1→▲18.9）、施設花き（11.8→▲22.2）の景況D Iは大幅に悪化した。施設野菜と施設花きについては、光熱動力費などの生産コストの上昇、天候不順による品質の低下や出荷時期と需要期のずれなどによる販売単価の下落が景況D I悪化の主要因と見られる。きのこも販売単価の下落により、景況D I値が大幅に悪化した。このほか、畑作（▲17.6→6.0）は昨年の北海道の台風被害から一部回復が見られ、大幅な改善が期待される。

## 3. 29年通年の景況D I見通しは悪化する見込み

図に示したように、農業全体の景況D Iの29年通年見通しは、28年（20.0）より16.7ポイント低い3.3と悪化している。

業種別にみると、養豚（26.2→34.4）、ブロイラー（27.4→29.4）は、販売単価の好調を反映して景況D Iは改善する見通しだが、酪農（北海道：57.6→24.6、都府県：52.2→20.0）、採卵鶏（40.8→3.9）は、プラス値を維持しているものの、慎重な見方となっている。また、肉用牛は足元の販売単価の下落を受け、景況D Iはマイナス（50.3→▲17.4）に転じ、大幅に悪化する見通しである。

畑作（▲17.6→12.0）は昨年の台風被害から回復の見込みが高まり、大幅な改善が見込まれる。施設野菜（26.3→12.6）、果樹（25.6→11.0）、露地野菜（14.7→7.7）はプラス値を維持しているものの、予測が困難な天候のもと販売価格の見通しが不透明なことから慎重な見方となり、景況D Iの見通しは悪化している。

稲作（北海道：▲4.9→▲19.0、都府県：23.6→▲4.7）は天候を不安視してか、景況D Iの見通しは大幅に悪化し、きのこ（1.1→▲4.0）、施設花き（11.8→▲12.1）は厳しい見方となり、景況D Iはマイナス値に転じる見通しとなっている。

## 4. 雇用状況D Iは大幅マイナスを継続

29年上半期の雇用状況D Iは、28年（▲33.6）からほぼ横ばいの▲34.6となった。他産業との競合などから、農業のすべての業種で深刻な労働力不足の状況が続いており、農業者からは設備投資による生産性向上を図り、労働力不足を補うとの声が多く聞かれた。

表 業種別にみた景況D Iの推移

	22年 実績	23年 実績	24年 実績	25年 実績	26年 実績	27年 実績	28年 実績	29年 上半期実績	29年 通年見通し
農業全体	▲25.2	▲7.9	13.2	▲1.4	▲33.7	16.8	20.0	12.0	3.3
酪農（北海道）	▲37.8	▲26.9	▲2.2	▲9.4	▲4.1	55.9	57.6	45.1	24.6
酪農（都府県）	0.0	▲24.2	0.0	▲23.8	▲30.9	29.3	52.2	30.2	20.0
肉用牛	▲7.4	▲47.4	8.3	20.5	▲1.2	48.5	50.3	9.8	▲17.4
養豚	15.5	▲6.2	▲38.1	43.6	67.5	48.8	26.2	45.1	34.4
採卵鶏	14.1	8.4	▲40.6	43.9	28.6	71.0	40.8	32.7	3.9
ブロイラー	▲20.0	▲6.3	▲1.3	▲22.4	10.4	51.9	27.4	44.9	29.4
稲作（北海道）	▲36.9	43.5	43.9	▲4.2	▲67.2	20.1	▲4.9	▲1.1	▲19.0
稲作（都府県）	▲55.5	13.1	36.2	▲10.2	▲71.0	▲3.8	23.6	4.6	▲4.7
畑作	▲32.2	▲19.1	1.8	▲27.6	▲5.3	35.2	▲17.6	6.0	12.0
露地野菜	▲2.0	▲14.0	6.7	15.1	▲15.7	14.3	14.7	17.0	7.7
施設野菜	▲6.9	▲15.7	19.9	15.6	▲8.4	20.3	26.3	8.9	12.6
茶	▲32.1	▲47.3	▲12.8	▲44.8	▲55.0	▲53.1	11.1	13.8	12.1
果樹	▲0.9	▲11.7	16.0	6.3	▲12.7	11.5	25.6	24.8	11.0
施設花き	▲20.5	▲38.8	▲8.0	▲2.8	▲34.4	▲5.9	11.8	▲22.2	▲12.1
きのこ	▲51.8	▲47.1	▲19.6	4.7	▲20.7	15.2	1.1	▲18.9	▲4.0

資料：日本政策金融公庫 農林水産事業本部